

家 庭

1 教育課程研究協議会の経過（平成11年度～14年度）

高等学校における専門教科「家庭」の新しい教育課程の編成・実施に向け、平成11年度から「高等学校新教育課程編成の手引」を作成・配付するとともに、教育課程研究協議会を開催し、手引や資料を用いて学習指導要領改訂の趣旨や指導計画等についての説明や協議を行ってきた。

平成11年度からの手引及び説明の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成11年度	1 科目編成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容 (1) 目標 (2) 各科目	・現行学習指導要領の科目編成との比較について ・家庭科と生活関連産業について ・教科の目標と原則履修科目について ・各科目の内容の取扱い等について
12年度	1 全般的事項 2 各科目 (質疑応答形式で記述)	・専門教科の目標の改善について ・原則履修科目「生活産業基礎」、「課題研究」について ・被服に関する科目構成について ・各科目の改善について
13年度	1 教育課程の編成 2 指導計画と内容の取扱い 3 指導計画の作成 4 質疑応答	・教育課程編成の基本的考え方や配慮事項について ・指導計画作成上の留意点等について ・科目「生活産業基礎」の指導計画について
14年度	1 学習指導の改善 2 評価の工夫 3 学習指導案の作成 4 質疑応答	・学習指導の工夫や改善等について ・評価の観点や方法等について ・科目「生活産業基礎」の学習指導案について

2 学習指導の改善・充実

(1) 個に応じた指導の工夫

生徒の興味・関心を重視し、将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎的・基本的な知識と技術を確実に習得させるためには、個に応じた指導の充実が求められている。このため、生徒の学習状況等を十分に把握し、その結果を踏まえて、次に示すような学習方法や指導体制等を取り入れ、指導を工夫することが大切である。

ア 学習方法の工夫

体験的な学習、問題解決的な学習、コンピュータの活用、就業体験の活用等

イ 指導体制や学習形態の工夫

個別指導、少人数指導、グループ指導、ティーム・ティーチング等

(2) 指導と評価の工夫・改善

生徒の学習状況を多面的に評価し、優れているところや学習のつまずき等を把握するためには、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4つの観点を踏まえて評価することが大切である。また、その評価を踏まえて、指導方法を工夫・改善することが重要である。

表1は、生徒の学習状況を的確に把握するために、科目「児童文化」等における保育実習を例に、学習活動に評価の内容や学習状況等を対応させたものである。また、指導の過程で「努力を要する」と評価された生徒に対する手だての具体例として、補充的な指導の例を表2に示した。

表1 保育実習

評価・評定のプロセス	学習活動	評価の内容	時間	学習状況※			評価観点	
				(A)	(B)	(C)		
(学習指導要領の改訂) (学習指導録の改訂) 各科目の評価の 観念の趣旨、内容 指導と評価計画の 作成(評価規 準) 単元の指導・評 価計画(評価規 準を含んだ指導 と評価) 授業の実践 (単元の形成的 評価) 単元の総括的評 価 学期末・学年末 の総括的評価	1 遊び計画 づくり	①グループごとに 協力して遊びの 計画を立てること ができる。 ②紙芝居や折り紙 等の遊びの技術 を身に付けるこ とができる。	3	①乳幼児の発達を 理解し、遊びを 調べ、遊びの計 画を立てること ができる。 ②工夫して遊びの 技術を身に付け る。	①遊びを調べ、遊 びの計画を立て ることができる。	①遊び計画を立て ることができな い。 ②遊びの技術を身 に付けることが できない。	関心 知識 技能	
	2 幼児と遊 ぼう	③幼稚園(保育所) の幼児と楽しく遊 ぶことができる。 ④紙芝居や折り紙 等を幼児の前で 演じることがで きる。	3 / 6	③積極的に幼児と 遊ぶことができ る。 ④幼児の反応を見 ながら、紙芝居 等を演じること ができる。	③幼児と遊ぶこと ができる。	③幼児と遊ぶこと ができない。	④幼児の前で紙芝 居等を演じること ができない。	意欲 態度 表現
	3 まとめ	⑤グループごとに、 遊びの計画や実 践の評価・反省 ができる。 ⑥遊びの成果発表 会の準備ができ る。 ⑦遊びの成果を発 表会で発表がで きる。	3	⑤改善点を考えな がら、評価・反 省ができる。 ⑥協力しての成果 発表会の準備に 取り組むことが できる。 ⑦工夫して発表が できる。	⑤評価・反省がで きる。	⑤評価・反省がで きない。	⑥成果発表会の準 備に取り組むこ とができない。 ⑦発表ができない。	判断 態度 表現

※評価の尺度 (A)：十分満足できる (B)：おおむね満足できる (C)：努力を要する

表2 補充的な指導

生徒の学習状況(評価)	指導の工夫
①遊び計画を立てることができない。	・幼児の遊びのビデオを視聴させ、遊びの計画を立てさせる。 ・生徒に幼児時代の遊びについて、話し合わせる。
②遊びの技術を身に付けることができない。	・保育士などを外部講師として招き、遊びの技術指導を受ける。 ・遊びの練習状況を撮影したビデオを見せ、問題点に気付かせる。
③幼児と遊ぶことができない。	・幼児の遊びのビデオの視聴させ、遊び方を考えさせる。 ・夏休み等を利用して、保育園訪問をさせ、幼児と交流させる。
④幼児の前で紙芝居等を演じることができない。	・グループ内で遊び担当の役割を見直し、全員参加の方法を考えさせる。 ・得意なこと活躍できる場面や役割分担などを考えさせる。
⑤評価・反省ができない。	・幼稚園(保育所)での遊びの様子の写真やビデオ等を見せ、思い出させる。 ・評価や反省の例を示して、わかりやすく説明する。
⑥成果発表会の準備に取り組めない。	・グループ内で担当の役割を見直し、全員参加の方法を考えさせる。 ・まとめ方の手順や方法を示し、良い点を評価して自信をもたせる。
⑦発表ができない。	・発表の練習をさせる。 ・発表の仕方を具体的に示し、良い点を評価して自信をもたせる。

(3) 科目「生活産業基礎」のシラバス (例)

教科名	家庭科	科目名	生活産業基礎	
科目の目標	生活と産業とのかかわりについて理解させ、生活に関連する職業などへの関心を高めるとともに、必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を育てる。			
履修学年	1学年	学科・コース	〇〇〇学科〇〇コース	
単位数	2単位	授業形態	個別学習、グループ学習、一斉学習等	
教科書	〇〇〇	副教材等	〇〇〇	
1 学習の目標				
この科目では、学習への動機付けや卒業後の進路についての意識を深め、将来のスペシャリストとして必要な専門的な知識や技術を習得するために、次のような力を身に付けてください。 (1) 衣食住、家族・保育、家庭看護・福祉などに関する生活産業や関連する職業について理解します。 (2) 生活と産業とのかかわりについて理解し、心豊かな生活を創造する生活産業の発展に寄与できる知識や技術を身に付けます。 (3) 生活産業における就業体験を通して、実践的な態度や望ましい職業観、勤労観を身に付けます。 (4) 将来のスペシャリストとして、生活産業に関連する進路や資格等について理解します。				
2 学習内容と進め方				
この科目の学習内容と進め方は次のとおりです。 (1) 各自の生活を振り返り、生活が様々な産業に支えられていることを具体的に学習します。 (2) 社会の変化に伴い、生活に関する価値観や消費者ニーズの多様化等により、生活産業が発展していることを学習します。 (3) 食生活・衣生活・住生活・ヒューマンサービス関連分野などの生活産業の種類や特徴について、就業体験等を通して学習します。 (4) 学習のまとめとして、職業生活が自己実現につながることを理解し、進路や自己実現の方法について学習します。				
3 学習の留意点				
日頃から次のようなことに心がけて、学習を深めましょう。 (1) 家庭生活を支えている具体的な生活産業やヒューマンサービスについて、興味・関心を持ち調べてみましょう。 (2) 職業に従事している方々との会話を日常生活の中で多く持つよう努力し、様々な職業についての情報を収集するように心がけましょう。 (3) 日頃から自分を見つめ、自分のよさや特性、興味や関心のある職業について考えてみましょう。 (4) 就業体験や実習などには、積極的・主体的に取り組みましょう。				
4 評価の方法				
次のような観点や方法で学習状況を総合的に評価します。 (1) 評価の観点 ① 生活関連分野の職業に関心をもち、将来のスペシャリストとして必要な基礎的・基本的な知識や技術を主体的に習得しようとしたか。 ② 家庭に関する専門的な学習を通して、卒業後の進路について考えることができたか。 ③ 調べ学習や就業体験等において、その成果や実践等を適切にまとめたり、発表することができたか。 ④ 生活と産業のかかわり、生活産業の意義や役割、生活に関連する各分野の職業等について理解することができたか。 (2) 評価の方法 就業体験や学習等の態度、ノート・ワークシート、就業体験日誌、学習プランの作成、テスト 等				
5 授業計画				
月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	評価の方法
4	オリエンテーション	・科目「生活産業基礎」の学習内容、就業体験、評価の方法等について、昨年度の記録ビデオの視聴等を通して説明します。		
5	1 生活と産業	・生活がどのような産業とかわっているのか「家族の生活時間調査」を実施し、状況を把握し、結果をまとめます。 ・その結果発表をもとにグループ討議を行い、生活産業が私たちの生活を支えていることを理解します。	【関心・意欲・態度】 ・生活と様々な産業とのかかわりについて、関心をもち、意欲的に取り組もうとしたか。 【技能・表現】 ・調査結果をまとめ、発表できたか。 【知識・理解】 ・家庭生活の変化に気付き、衣食住などの生活が様々な産業に支えられていることについて理解できたか。	観察 生活時間調査表の記録 調査結果記録 発表内容、発表態度 話し合いのまとめ
6				
7				

8	2 社会の変化と生活産業 (1) 社会の変化と価値観の多様化	・社会の変化によってライフスタイルや生活観が多様化していることについて、各種白書や新聞記事の調査により理解します。	【関心・意欲・態度】 ・社会の変化と生活産業の発展等に関心をもてたか。 【思考・判断】 ・社会の変化と生活産業の発展について考えを深めているか。	観察 学習プリント 調査用紙 ワークシート 意見発表 発表態度 作文 定期考査
9	(2) 産業構造の変化と生活産業の発展	・生活産業の発展は産業構造の変化と消費者の多様なニーズにつながっていることを、ワークシートの記入を通して理解します。	【技能・表現】 ・調査結果をもとに自分の考えをまとめ、意見を発表できたか。	
10		・心豊かな生活と生活産業の発展について意見交換を行い、自分の考えをまとめます。	【知識・理解】 ・ライフスタイルの変化、多様なニーズに伴う生活産業の発展について理解できたか。	
11	3 生活産業と職業 (1) 生活産業の特徴と意義 ※A ア 食生活関連分野 イ 衣生活関連分野 ウ 住生活関連分野 エ ヒューマンサービス関連分野	・自分の興味や関心に応じ、生活産業に関連する職業について、進路関係資料やインターネット等の活用を通じて、具体的職業への関心を高めます。	【関心・意欲・態度】 ・生活産業やヒューマンサービスの種類や特徴等に関心をもち、意欲的に学習活動に取り組んでいたか。	調べ学習ノート 観察 就業先実習態度 就業先の評価 就業体験日誌 まとめ発表原稿 発表態度 発表技術 ワークシート 講話のまとめ 定期考査
12	(2) 就業体験 ※B ① オリエンテーション ② 就業体験 ③ まとめ ④ 就業体験成果発表会	・生活産業の種類や特徴、職業の意義と資格等について、各分野の社会人講師の講話を聴くことにより具体的に理解します。	【思考・判断】 ・社会人講師の講話や就業体験等の学習活動の中で、課題を見付け、解決を目指して考え、工夫していたか。	
		・業務内容やマナーや心構え等について事前説明を受けます。	【技能・表現】 ・就業体験等について、計画を立てて実践するとともに、体験日誌等をまとめ、発表することができたか。	
		・生活産業関連の職場で就業を体験します。	【知識・理解】 ・生活産業やヒューマンサービスの種類や特徴、意義や役割、関連する職業について理解できたか。	
		・体験の中で自分なりに課題を見つけ、解決を目指して考え工夫します。		
		・就業体験をもとに自分の進路について考えを深めます。		
		・自分の体験の成果や課題等を発表するとともに、友達の就業体験発表を通じて、他の職業に関する意識を深めます。		
1	4 職業生活と自己実現	・職業生活が自己実現につながることにグループ討議を通して理解します。	【関心・意欲・態度】 ・専門科目の学習と職業生活とのかわりや、職業資格等に関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んだか。	観察 講話記録 対談内容 調べ学習 グループ討議の記録 学習プラン 発表態度 発表技術 定期考査
2		・専門科目の学習と職業生活とのかわりについて進路担当教員からの講話を聴き、理解します。	【思考・判断】 ・将来の職業生活と進路選択をすることができたか。	
3		・自分の将来の職業生活と進路選択について卒業生との対談から考えを深めます。	【技能・表現】 ・職業資格の取得方法を調べ、進路目標に応じた学習プランを立てることができたか。	
		・職業における資格の意義や取得方法について各種資格取得の実施要項等を調べ理解します。	【知識・理解】 ・職業や勤労の意義、職業資格の意義、専門教科と資格取得方法等について理解したか。	
5	まとめ	・1年間の学習のまとめをします。		

※A ア～エの各分野に関連する主な職業は、次の通りです。

ア 食生活関連分野（調理師・栄養士・製パン技術者・フードプランナー・フードコーディネーター等）

イ 衣生活関連分野（デザイナー・パターンナー・ファッションアドバイザー・スタイリスト等）

ウ 住生活関連分野（建築士・インテリアプランナー・インテリアコーディネーター等）

エ ヒューマンサービス関連分野（保育士・介護福祉士・訪問介護員等）

※B 興味や関心、進路等を考え、ア～エの各分野から1つ選択し、就業体験の実習を行います。